

● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）7 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中 A）

4 日に南東火口丘の東山腹の火口で爆発が発生し、5 日にはストロンボリ式噴火が始まった。噴火は 8 日に一時的に停止したが 9 日に再開し、溶岩流及び溶岩噴泉を生じた。噴煙が数 km の高さまで上がり、南及び南東の都市で火山灰や火山れきが降下し、カターニア国際空港が閉鎖された。数時間後噴火活動は再び停止したが、16 日に再開し、その後は溶岩流、溶岩噴泉等を伴って活発な活動が継続した。

一方 11 日には、ボッカ・ヌオーバ火口から 2002 年以降初めてのマグマ噴火となる、ストロンボリ式噴火が始まり、火山弾が噴出した。15 日には溶岩流の流出がみられている。

ロコン・エンブン（インドネシア）（図中 B）

14～15 日に、3 回の噴火が発生した。溶岩と火山灰が噴出し、約 5,000 人が避難した。17～18 日の爆発では、火口縁上 0.6～3.5 km まで上がる火山灰が生じた。18 日の噴火以降活動は低下した。

プジェウエ・コルドンカウジェ（チリ）（図中 C）

6 月に活発化した活動は 7 月も継続した。火山灰が 2～5 km まで上がり、風向きによって各方面へ流れた。この間、アルゼンチンとウルグアイ及びその周辺で火山灰の影響により、時折、航空便の欠航や空港の閉鎖が行われた。また、溶岩流は流量の減少や停止を繰り返しながらも活発な状態が続いた。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

